

# かなえ

第23号(平成25年10月1日)

医療法人社団鼎会 八柱三和クリニック

千葉県松戸市日暮1-16-2 日暮ビル2階 047-312-8830

<http://www.yabashirasawa-clinic.com>



## 彼岸花咲く租光院

九月末に八柱三和クリニックに定期診察にきた。看護婦さんから常盤平の彼岸花がとてもきれいですとのお話があり、診察後教えてもらった常盤平の租光院にいそぐ。スケッチ道具は車の中にある。10分ほど走らせると到着。すぐ辺りのスケッチ散策、ポイントを探す。最初に見た駐車場の入り口からの構図にする。お寺の境内には曼珠沙華が満開である。車椅子や見物の年配の人が多。大きなカバンを持った写真家が彼岸花に太陽が当たるチャンスをとっていた。

絵と文 : 松戸市在住 水彩画家 菅谷功氏

## 医者に分からないと言われたら 院長 齊藤丈夫

気になっている症状を医師に相談しても、はっきりした答えが返ってくるとは限りません。「その症状についてはよく分かりませんね、まあ大丈夫ですよ」これでは期待外れでしょう。医師は体のことなら何でも分っているはずだ、そう信じている患者さんもいるのでしょうか？ 残念ながらそんなことはありません。

医師が知っているのは「人の様々な症状については本当のところは分からないことが多い」ということです。重大な症状を軽視しないように訓練されていても、その他の症状については何とも言えないことが多いのです。医師は(あまり責任のない人が言うように)血行が悪い、自律神経の不調などと、根拠がない説明をすることは許されません。分からないことは『分からない』と率直に言わなければなりません。

『分からない』というのは「診断」とは言えませんが、立派な「判断」です。自信がないと堂々と分からないとは言えないものです。分からないのは勉強不足や経験不足のためかもしれない…そう思ったら、分からないとは言にくいはずです。患者さんの信頼が揺らがないという自信も必要です。説明すべき時にはきちんと説明しているという自負があれば、分からない時は分からないと言えるものです。

医師に分からないと言われたら、とりあえずは安心して様子を見ても大丈夫だと思います。医師が自信満々に説明を始めたら、患者さんにとってはしばしば悪い知らせです。医師が分からない症状は、そのうちに治ってしまうことも多いものです。

分からない時の対応には医師の個性が出ます。ある患者さんが歩行時の不安定感を心配して受診しました。その他には症状はなく診察したところ特に異常はありません。患者さんは脳梗塞を心配しているので、念のため頭部のCTをとりましたが正常でした。心配ない、若くはないのだからこの位は仕方がないという説明もあります。「加齢性平衡障害」というもったいぶった言い方もあります。分からないというよりは、難しいことを

言う方が医師らしいでしょうか。患者さんの満足度を重視する医師は、めまいの薬を処方するかもしれません。

CTは診断学の原則に照らせば不要な検査かもしれません。ただしCTをとって安心することが患者さんにとっては有益なこともあります。偶然でも検査しておいて幸運だったという病気が見つかることもあります。気休めの検査とも言えますが、それなりに利点もあります。

一方、薬はどうでしょうか？ こちらはなかなか微妙なものです。このような場合、自信を持って処方できる薬はありません。それでも薬を出しておけば、次に診察した時には「おかげさまで薬飲んだら良くなりました」と感謝されることも少なくありません。さて、良くなったのは薬の効果と言えるのでしょうか？ 多くの症状は薬を飲んでも飲まなくとも、自然に治ります。また薬にはプラセボ(偽薬)効果というものがあります。薬を飲んだという安心感や暗示による効果です。数多くの臨床治験の経験から、乳糖やでんぷんの塊りに過ぎない偽薬であっても、何割かの患者さんは症状が良くなることが知られています。薬を飲んで良くなったとしても、本当の薬の効果以外に、自然治癒、プラセボ効果などが含まれています。

そんな理屈はともかく症状が良くなればOKという考え方もあります。実際、多くの場面で医師はプラセボ効果を利用しています。しかし薬を処方したことが裏目に出ることもあります。患者さんは薬のおかげで治ったと感じることが多いので、薬に依存するきっかけになってしまうことがあります。自然に治ったのと薬を飲んで治ったのでは患者さんの自信が違います。「薬がないと不安なのでまためまいの薬がほしい」ということになりかねません。何度もCTを希望する患者さんはいません。検査がくせになることはありません。一方、実は有効ではない薬がやめられなくなる患者さんは少なくありません。医師が薬を処方するという行為には、それなりに権威があり、薬にはプラセボ効果もあります。だからこそ薬は安易に処方できないという面があります。



## 三和病院建設 経過報告



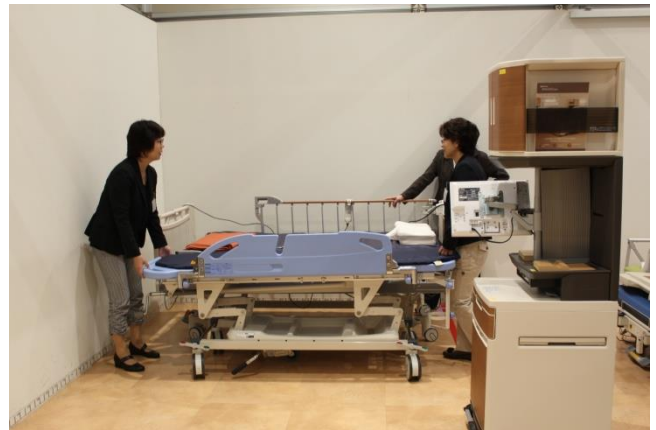
9月18日に初杭が打たれ、順調に杭打ち工事が進みました。



全ての杭が地中に打たれ、使われた重機を解体しているところです。



工事の進捗状況は全体会議でスタッフに共有します。(9月19日全体会議の様子)  
また、9月21日に行われた「三和さくら会」(糖尿病患者会)では、工事の写真で話題が盛り上がり、楽しいひと時を過ごしました。



病棟のイメージをふくらませ、ベッドや病室内の家具を決めるために、看護師が病室の大きさに仕切られた空間の中でストレッチャーやベッドを動かしてみます。



パラマウントベッドの本社で、三和病院の病室を実際の大きさに仕切ってもらいました。ご協力いただきありがとうございました。



9月28日に行われた健康サービスデーでは、乳腺専門医 渡辺修医師の講演「アンジーの決断」がありました。(遺伝性乳癌について)  
講演の後は、病院建設の進捗状況をお話し、参加者からは新病院に対する質問もありました。みなさんに期待していただいていることがわかります。参加してくださった方々ありがとうございました。

### 八柱三和クリニック診療医師担当表

		月	火	水	木	金	土
乳腺外科 1	午前	渡辺 修	渡辺 修	(手術)	渡辺 修	渡辺 修	渡辺 修
	午後	渡辺 修	渡辺 修		(手術)	渡辺 修	
乳腺外科 2	午前				阪口志帆		
	午後				(手術)		
整形外科	午前					浅野健一郎	早田浩一郎 (2, 4)
	午後	小酒井治 (2, 4)			小林洋平	浅野健一郎	
内科 1	午前	斉藤丈夫	斉藤丈夫	斉藤丈夫	斉藤丈夫	斉藤丈夫	斉藤丈夫
	午後	斉藤丈夫		斉藤丈夫	(在宅)	斉藤丈夫	
内科 2	午前	渡辺聡枝	渡辺聡枝	渡辺聡枝	渡辺聡枝	渡辺聡枝	杉崎良親
	午後		仲野総一郎	渡辺聡枝	渡辺聡枝	(高林克日己)	
内科 3	午前	鈴木明子	鈴木明子	鈴木隆弘	鈴木明子		高林克日己
	午後	鈴木明子	鈴木明子	藪下寛人	鈴木明子	鈴木明子	
内科 4	午前						渡辺聡枝 (1, 3, 5)
胃カメラ	午前	渡辺英二郎	横溝 肇			鈴木明子	
大腸カメラ	午後	渡辺英二郎	横溝 肇				

インフルエンザの予防接種が始まります。

なるべくお待たせせずにご予約を受けていただけるように「インフルエンザ予防接種専用外来」を設けます。10月中は 10/12・17・19・26・31 に行います。(午後から)

電話・窓口で予約受付しています。お気軽にお声掛けください。

編集後記

空が高くなり、すっかり涼しくなりました。三和病院建築現場には赤とんぼが飛んでいて、目印に立てている木杭にとまって大きな眼で工事を見物しています。建設は順調に進み、毎日現場の様子が変わっていきます。職人さん達の無駄のない動きとチームワークに感動します。鼎会でも病院建設推進事務局が設置され、各分野ごとに情報収集・業者選定・機種選定・病院全体の流れや人の動き、職員の採用などを進めています。新築・新築という病院作りはめったにない機会です。一緒に病院を作っていきたくらいの方がいらっしやいましたら職員募集に是非応募してください。

総務: 中野三代子